

パティオ



「合同火災訓練」を実施しました

7月に、板橋消防署に立ち会っていただき、当院での火災訓練を実施しました。

例年実施している火災訓練

今年度は、5B病棟から出火した想定で火災訓練を実施しました。新しい取り組みとして、火元病棟の隣の病棟から応援職員がいく、という仕組みを検討しました。

火災発生時の対応

病棟で出火した場合は、まず看護師が初期消火、避難誘導を実施します。また、応援で防災センターの職員が火元病棟に急行します。

病棟での消火・避難活動と並行して、災害対策本部では、病院長や事務長たちが集まり、被害状況の確認、情報収集を行っています。

また、消防隊も速やかに当院に来てくださいます。消防隊は、被害状況を確認して、消火・避難活動を引き継いでくださいます。

病院で火災が発生した際は、自主避難できない患者さんもいるため、非常に危険です。消火器、消火栓、防火扉など、被害を抑える設備を、有事の際にしっかりと使えるよう、また、皆さまを安全に避難誘導できるよう、訓練を重ねていきたいと考えています。皆さまにおかれましては、当院のルールをお守りいただき、火災防止に引き続きご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。



豊島病院 予約センター 03-5375-5489 (紹介予約制)

予約受付時間 平日 9時00分～19時00分 土曜日 9時00分～12時00分

尿道留置カテーテルと自立排尿について



さまざまな医学上の理由で、自立排尿が困難な状況になると、尿道留置カテーテル（以下カテーテル）が必要になります。例えば全身麻酔を必要とする通常の外科手術では手術中にカテーテル留置が必要です。一般的には手術中に留置したカテーテルは手術が終わって歩けるようになるくらいに回復すると、抜去して自立排尿に戻ります。

ところが、カテーテルを抜去しても自立排尿出来ない入院患者さんが案外少なくないことは良く知られるところです。長期に及ぶカテーテルの使用は患者さんの生活の質を低下させるだけではなく、人としての尊厳が妨げられ、転倒・寝たきりにもつながることが様々な研究・調査で解明されています。さらに、最近基幹病院では「退院支援」として入院中から患者さんが退院後すみやかに平穏な日常生活を取り戻すことを目標としたさまざまな取り組みが行われていますが、自立排尿は「退院支援」を進める上で大切な要因になっています。このような背景から、平成 28 年度の診療報酬改定で入院患者さんの自立排尿を促すアプローチを院内の多職種チームで行う試みに対して、「下部尿路機能療法」として保険収載が認められました。

地域医療支援病院としての役割

豊島病院は地域医療支援病院として、地域医療の第一線を担うために中小病院・診療所で勤務している「かかりつけ医」を支援する責務があります。「かかりつけ医」は退院と同時にもう一人の主治医として患者さんのケアに関わることとなりますが、豊島病院から「かかりつけ医」へのバトンタッチに際して、入院患者さんが、自立排尿を達成して退院日を迎えられることは大きなプラスポイントになります。すなわち自立排尿は地域医療のリスク軽減に結び付き、「かかりつけ医」の一助となり、豊島病院の運営方針の一つである「地域医療連携の推進」に貢献することができます。

以上の経緯から、平成 29 年度より豊島病院における排尿ケアチーム設立を企図し、平成 30 年度から東京都保健医療公社病院の中では一番手としてチーム活動を開始しました。医師、看護師、リハビリ、事務で構成されたチームが、毎週金曜午後 4 時より病棟を回診します。「医療で地域に貢献する」ために、現在、豊島病院ではさまざまな取り組みを開始しています。排尿ケアチーム発足もその一環であることをご理解いただけたら幸いです。

大規模災害訓練のお知らせ

豊島病院は東京都災害拠点病院に指定されています。
平成 30 年 10 月 5 日（金）午後 2 時から、東京湾北部地震（M7.3）を想定した「大規模災害訓練」を板橋消防署や板橋看護専門学校と協力して行います。
皆さまのご理解・ご協力をお願いいたします。



誌名である「パティオ」はスペイン語で中庭のことで、当院 1 階にある患者さんや職員にとっての憩いの場所です
公益財団法人東京都保健医療公社 豊島病院 <http://www.toshima-hp.jp> 東京都板橋区栄町 3 3 - 1
(病院代表) 03-5375-1234 : (予約専用) 03-5375-5489
豊島病院広報誌第 93 号 発行者：安藤 昌之（豊島病院副院長） 編集：企画係

